

ふくしま オーガニック通信

～ 令和8年度 第2号 ～

令和8年8月27日発行
農業総合センター有機農業推進室



タマネギの収穫とオオムギ間作(郡山市)



【編集・発行】福島県農業総合センター有機農業推進室
福島県郡山市日和田町高倉字下中道 116 番地
TEL: 024-958-1711 FAX: 024-958-1730
Email: yuuki_otasuke_soudan@pref.fukushima.lg.jp



↑ ホームページ

～有機農業推進等の取組紹介～

オーガニックライフスタイル EXPO West in 京都に出展しました!

【農業総合センター有機農業推進室】

令和8年6月12日～13日に京都市勧業館みやこめっせで開催された「第3回オーガニックライフスタイル EXPO West in 京都 2026」に、オーガニックビレッジに取り組む二本松市、喜多方市、鮫川村、そして6月29日にオーガニックビレッジ宣言した会津若松市と福島県が、福島県ブースとして出展しました。

EXPO には約120の団体が出展し、福島県ブースは「ふくしまオーガニックビレッジ物語」と銘打ち、ひときわ目を引く広いスペースで、4市村の取り組みのパネル展示やチラシの配布、試食・試飲を実施し、来場者に福島県の有機農業の取り組みを紹介しました。二本松市のにんじんジュース、喜多方市のリンゴジュースとジャム、鮫川村の豆菓子と味噌、会津若松市のミニトマトときゅうりをご試食いただき、「砂糖が入っていないのに甘い!」「どこで買えるのか教えて」などうれしい感想をたくさんいただきました。

県では、11月12日～14日に東京の EXPO に出展し、益々福島県の有機農業を PR して参ります。



ひときわ目を引く福島県ブース



りんごジュースを試飲する来場者

相馬市で田植え体験会が開催されました

【相双農林事務所双葉農業普及所】

令和8年6月13日に、相馬市で「家族農林漁業プラットフォームふくしま浜通り」による田植え体験会が開催されました。同団体は、相馬地域において、生産者と消費者が一緒に食や環境のことを考える場所づくりなどに取り組んでおり、本イベントも、消費者に生産者と一緒に田植え作業を体験して、地元農産物に関心を持ってもらうことを目的として開催されました。当日は、29名（うち親子7組、生産者6名）が参加し、相馬市で水稻の有機栽培に取り組んでいる「合同会社さとうさんち」のほ場で水稻の手植えをしました。県からは、相双農林事務所の職員が参加して有機栽培の特徴や手植えの方法を説明し、有機農業について理解を深めていただきました。



田植えの様子



田植え後の水田

～現地実証ほの紹介～

水稻有機栽培における晩植によるクログワイの抑草効果と収量・品質確保の実証

【農業総合センター有機農業推進室】

水稻の難防除雑草であるクログワイは、水稻の分けつ期頃から発生が顕著に見られ、対策が困難な雑草です。有機栽培では秋耕により冬期間の低温と乾燥で塊茎を死滅させる方法が有効な防除技術となっています。しかし、近年、温暖化による冬期間の気温上昇や降雨の影響で、低温・乾燥状態が保たれず、効果的に防除することが困難な状況にあります。また、登熟期間中の高温により、玄米品質の低下も課題となっています。

昨年、晩植栽培によりクログワイの発生初期に代かき・移植作業を行ったところ、慣行栽培と比較して抑草効果が見られたことから、今年も年次間差を確認するため、同様の調査を行っています。



8月4日の慣行栽培



8月4日の晩植栽培

水稻有機栽培における抑草技術の検討

【会津農林事務所 農業振興普及部】

水稻有機栽培では秋耕による稲わらすき込みが推奨されていますが、会津地方では、天候により秋耕が実施できないことや、冬期の積雪により乾土効果が期待できないなど、稲わらが十分に分解されないことがあります。

一方、有機栽培技術の一つであるBLOF理論では、春先の稲わら分解促進として納豆菌や乳酸菌、抑草のために酵母の施用を行っています。そこで、秋耕ができなかった稚苗移植栽培の水稻有機ほ場において、春期に稲わら分解のための納豆菌を散布するとともに、移植後に市販の農業用乳酸菌や、酵母を含む資材として喜多方市を中心に使用されている酒粕ペレットを施用し、抑草効果に与える影響を調査しています。



移植2週間後の様子



田面に散布された酒粕ペレット

水稻有機栽培におけるコナギ対策の検証

【相双農林事務所双葉農業普及所】

水稻の有機栽培では雑草防除が大きな課題の一つで、特にコナギは出芽時期が遅いなど、有機栽培では防除が困難な雑草です。近年、コナギにも有効であるとの事例報告から自動抑草ロボットの普及が進んでおり、浜通りでも導入する生産者が増えてきています。一方、公表事例の多くが使用期間を通して1枚のほ場に投入しており、複数のほ場で運用している事例報告は少ない状況です。そこで、自動抑草ロボットを複数のほ場で使い回せるよう、従来の機械除草と組み合わせるなど、実際の経営規模における運用指標について検討します。



田植え 11 日後のほ場（機械除草の作業中）



田植え 24 日後のほ場

～試験研究の紹介～

有機水田における早期深水管理等の組み合わせによる抑草効果の検証

【農業総合センター有機農業推進室】

農業総合センターでは、水稻有機栽培における雑草対策技術の検証として、3 回代かき、RTK 田植機を活用した湛水状態での田植え、深水管理の組み合わせによる抑草効果を検証してきました。今年度は、水稻有機栽培ほ場において、深水管理と慣行の水位管理を比較し、抑草効果や水稻の生育状況を調査しています。



コナギ、ホタルイの発生状況



深水管理水田の様子

間作による害虫等の被害低減技術の検討

【農業総合センター有機農業推進室】

タマネギ栽培において、春先以降のアザミウマ類の吸汁痕等から病原菌が侵入して発生する腐敗球が問題となっています。他県では、春播きタマネギの通路にオオムギを播種することにより、天敵等を増やして害虫による被害を抑制することが確認されています。今回、福島県において主流である秋播きタマネギの通路にオオムギを播き、害虫等の被害低減効果を調査しています。



タマネギ通路に播種したオオムギ



タマネギの内部腐敗

～補助事業紹介～

有機農業関連の補助事業について

【環境保全農業課】

環境保全農業課では、以下の事業を設けています。活用要望がございましたら、お住まいの地域を所管する農林事務所農業振興課までご連絡ください。

1 環境にやさしい農業拡大推進事業

(1) 有機JAS認証等拡大支援事業

有機JAS認証に係る経費等を支援します。

事業主体：農業者等（小分け認証は県内事業者）

補助率：新規認証 3/4 以内、継続認証 1/2 以内

小分け認証（新規）定額（上限 30 万円）＋施設整備 1/2 以内（上限 200 万円）

(2) 有機農産物等の供給体制の整備

有機農業での施設・機械の導入経費を支援します。

事業主体：農業者組織等（有機農業者等2戸以上）

補助率：1/2 以内（上限 1,000 万円）

2 みんなでチャレンジ!環境保全型農業拡大事業

(1) 環境保全型農業チャレンジ!事業

有機栽培、特別栽培の拡大、新規取組に必要な経費を支援します。

事業主体：JA部会、生産者組織 等

補助率：有機栽培は1団体当たり、[参加人数]×[単価 10 万円/人]

特別栽培は1団体当たり、[取組面積(拡大分)]×[単価 5 千円/10a]

補助上限は 100 万円/団体

(2) 特別栽培農産物販売強化支援事業

県産特別栽培農産物の取組拡大を図るため、特別栽培農産物のブランディングや新たな商品開発、販路拡大に係る経費を支援します。

事業主体：特別栽培農産物の販売拡大に取り組む団体等

補助率：定額（補助上限 100 万円）

3 有機無限大(∞)チャレンジ支援事業

(1) 有機農業のスタート支援

有機農業の取組1年目の農業者を支援します。

事業主体：農業者等（有機農業の取組開始後1年未満の農業者）

補助率：定額（ただし機械導入は 1/2 以内）。補助上限は合計 100 万円以内。

(2) 「有機×〇〇」にチャレンジする担い手支援

有機農業を軸とした多彩な取組にチャレンジするために必要な経費を支援します。

事業主体：農業者等（有機農業を3年以上継続している農業者）

補助率：定額（ただし機械導入は 4/10 以内）。補助上限は合計 300 万円以内。



↑ 要綱・要領

【問い合わせ先】

県北農林事務所:024-521-2604 相双農林事務所:0244-26-1147
県中農林事務所:024-935-1307 いわき農林事務所:0246-24-6160
県南農林事務所:0248-23-1555 農業総合センター有機農業推進室:024-958-1711
会津農林事務所:0242-29-5302 農林水産部環境保全農業課:024-521-7453
南会津農林事務所:0241-62-5253

有機無限大(∞)チャレンジ推進事業のご紹介

【環境保全農業課】

令和8年度に新設した、「有機無限大(∞)チャレンジ推進事業」の取組内容をご紹介します。

1 有機無限大(∞)チャレンジ支援事業

新たに有機農業に取り組む方や、有機農業を軸とした新たな取組にチャレンジしたい方を支援する補助事業を実施します(前頁参照)。

2 有機無限大(∞)支援体制整備事業(県事業)

有機農業に取り組む機運を高めるため、「有機無限大チャレンジセミナー」を開催します。有機農業を軸とした様々な取組事例の紹介を予定しています。

3 有機無限大チャレンジ基盤づくり事業(県事業)

共同集出荷・流通体制の構築に向けた首都圏等への流通実証及び、将来的なオーガニックビレッジの取組拡大にもつながる地域内需要の開拓支援を行い、本県有機農業産地のさらなる発展・拡大を図ります。

4 ふくしまオーガニック魅力発信事業(県事業)

県内オーガニックビレッジと連携し、「ふくしまオーガニックビレッジ連絡会議」として、県外で開催されるオーガニック関連イベントへの出展やマルシェ開催により、首都圏消費者へ本県有機農業・有機農産物の情報発信を行います。

第19回農業総合センターまつりが開催されます！

【農業総合センター】

今年も、農業総合センターまつりと果樹研究所参観デーを以下のとおり開催いたします。

○本都会場 9月4日(金) 9:30~15:00 ○果樹研究所 9月11日(金) 10:00~15:00
9月5日(土) 9:30~15:00

農業総合センターまつりでは、試験研究成果に関するセミナーをはじめ、農産物販売、センターツアー、農業技術相談、虫の観察等の農業総合センターならではの企画が満載です。今年は「第52回花き品評会」や「みんなでチャレンジ!ふくしまエコマルシェ 2026」も同時開催します。

果樹研究所参観デーでは、技術セミナー、生産物販売、ほ場案内等を企画しています。

詳しい内容は、農業総合センターホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fukunou-centre/maturi.html>